

日本、スペイン、そしてニューヨーク

俳句と合唱でつなぐ壮大な歴史ロマン

ニューヨークを中心に活動する日系混声合唱団「ジャパン・コーラル・ハーモニー」とも(団長:阿部友子、音楽監督:白田正樹、通称JCH)が、5月にスペイン南部アンダルシア州のリア・デル・リオ市文化センターと、セビリア市にある世界遺産アルカサル宮殿で行われる合同演奏会に出演する。

このイベントは、400年に及ぶ歴史的な背景と東日本大震災をきっかけに再び実現したスペインと宮城県とのドラマチックな交流から生まれた。

この一代プロジェクトの実行と成功のため、ニューヨークからJCHの指揮者でありNPO「風の環コンサート」代表である白田正樹さんが情熱を持って実現までこぎつけた。

1 コリア・デル・リオと 仙台との歴史的つながり

スペイン南部、フラメンコで有名なアンダルシア州の州都で、カトリックの総本山としても知られるセビリア市。その近郊のリア・デル・リオ市(以下コリア)は、現在「ハポーン」を名乗る約800人の家族が暮らしている。彼らは戦国時代の1613年に仙台藩主であった伊達政宗が支倉常長を大使としてスペインに派遣した「慶長遣欧使節」の随行者の末裔であるといわれている。このハポーンさんたちは、代々にわたり自分たちがサムライの末裔であると信じ「ハポーン・ハセクラ協会」を組織している。コリア市内には1992年に仙台市が

寄贈した支倉常長の銅像があったり、「日本」という名の理髪店や「Santitas」というカフェなどがあつたりと非常に日本に由来がある街並みとなっている。

伊達政宗がわざわざ遠い異国の地スペインまで使節団を派遣したのは、当時世界に君臨したスペイン帝国、とくにスペイン大艦隊の力を借りて徳川幕府を倒し、天下を取ろうという野望があつたという説もある。今となつてはその真偽は分からないが、このコリア市とセビリア市には政宗の夢が託された日本文化が今なお根強く残っている。

政宗の夢、400年の時を超えて



復元されたサン・ファン・パウティスタ号



仙台市青葉城跡地にある伊達政宗の騎馬像 (写真提供: 仙台市観光交流課)

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、仙台市をはじめとした東北地方太平洋側沿岸部を襲った津波被害の甚大さは、世界的な惨事として各国に報道された。そのニュースを知ったコリア市のハポーンさんたちは、自らの遠い祖先の故郷の変わり果てた様子



コリア市民から寄せられた俳句の短冊を前にして、(左から) 黛まどかさん、フェルナンド・プラテー口氏、白田正樹氏

2 震災を機に俳句を通し 再び交流がはじまる

に心を痛めた。彼らは、追悼の意と復興への願いを込めて支倉像の前に集まり「君が代」や「さくら」を詠んだ。この俳句は、スペイン語で五・七・五の音節で詩句を連ねた短歌にしたもので、後日、コリア市の

昨年2013年は、支倉一行約180人余りの使節団が日本で最初の西洋型軍船となる「サン・ファン・パウティスタ号」(通称「伊達の黒船」)に乗り石巻市の月浦を出帆してちようど400年の年にあつた。そして今年2014年は、同一行がアカプルコやメキシコを経てスペインのコリア市及びセビリア市に

図書館長で俳句の作者でもあるフェルナンド・プラテー口さんの手で被災地の宮城県石巻市長に手渡された。図書館長は俳句の作者でもあり、この日本語への推敲には俳人としての協力をした。



昨年、石巻市月の浦を訪れたハポーンさん一行(支倉像の前)

3 使節から400周年の 節目の年

4 400年の時を超えて 交流イベントを企画

ニューヨークから仙台出身の白田さんが、俳人の黛まどかさんと元仙台の合唱団「秋」らと協力し、使節400年記念イベントの実行のためにプロジェクトに深く関与。遠くスペインの地に留まった仙台藩の子孫が、はるか400年の時を超えて祖先の故郷の惨状を悼み俳句を通して哀しみと励まし

この節目の年に両国の皇太子が名誉総裁となつて日本スペイン文化交流400周年事業委員会が組織され、さまざまな記念イベントが開催されている。昨年6月に皇太子徳仁親王がコリア市を訪れた際には、支倉常長像の横に桜の植樹をなさつたニュースは記憶に新しい。

訪れたハポーンさん達への返礼として、5月に仙台とニューヨークからスペインを訪問し記念イベントを予定。日本からの参加は、俳人の黛まどかさん、仙台の合唱団「秋」、石巻市の被災者などで、ニューヨークからはJCH「とも」が参加する。セビリアではスペイン王室の宮殿で、支倉一行が1ヶ月滞在したとされる世界遺産の「アルカサル宮殿」で、現地合唱団らとの合同合唱コンサートを予定。一方コリア市では合同コンサートに加えて俳句交流会も行われる。また、セビリア市およびコリア市の各当局主催による歓迎式典もそれぞれ計画されている。

5 ハポーンさんらを 仙台・石巻に招待

白田さんらが企画する日西文化交流プロジェクトの一環として、昨年夏、ハポーン協会の代表としてコリア市の合唱団ら約30人を仙台と石巻へ招待した。一行は石巻市を訪問し、現在はサン・ファン・パウティスタ号が展示してある市内の博物館や月の浦などを訪れ、黛まどかさんと俳句で交流。また、石巻および仙台両市長、西文化交流プロジェクトの顧問として宮城県知事を表敬訪問し、さらに北上川の川開きや仙台の七夕祭なども楽しんだ。コリア市の合唱団は仙台市の合唱団「秋」として仙台市内で記念コンサートを行ったが、同コンサートにはニューヨークからJCHの有志も参加した。



スペイン公演へむけて準備するJCHの練習風景



コンサートの会場となる世界遺産アルカサル宮殿の狩猟の中庭

＜スペイン公演の旅＞	
4月28日	ニューヨーク出発
4月29日・30日	コリア市にて俳句交流会
5月1日	セビリア市世界遺産「アルカサル宮殿」にて合同合唱コンサート
5月2日	セビリア市による歓迎式典
5月3日	コリア市文化センターにて合同コンサート
5月4日	マドリッド市内観光 (世界三大美術館のプラダ美術館、ピカソの「ゲルニカ」が展示されているソフィア王妃芸術センターなど)
5月5日	トレド市内観光(エル・グレコが絶賛した世界遺産の古都)
5月6日	マドリッドからニューヨーク帰着

スペイン公演に関して、また、JCHへの参加希望などの問い合わせは、電話201-214-1758またはEメール japan.choralharmony@gmail.com 福知さんまで。ウェブサイト <http://jch-tomo.org/>